

アデランス

アデランス CSR

<https://www.aderans.co.jp/corporate/csr/>



笑顔のために

これまでも、そしてこれからも続けていく
アデランスの取り組み

アデランス

笑顔あふれる心豊かな社会へ

私たちは創業当初から、「世界のブランド アデランス」を目指して、常に心からのおもてなしで、最高の商品と技術をお客様へお届けすることに努めてまいりました。2023年には創業55周年を迎え、毛髪・美容・健康・医療のグローバルウェルネスカンパニーへと、事業領域がますます広がっております。アデランスの事業が成長するにつれ、CSR活動の幅も広がっています。みんながずっと笑顔でいられるために。次世代へ向けての航跡を築くべく、これからも、健全で持続的な企業成長を目指す事業と一体化した価値共創型CSR活動を、グループ丸となり深化させてまいります。今後も引き続きのご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

株式会社アデランス
代表取締役会長
ファウンダー
(創業者)



根本信男

株式会社アデランス
代表取締役
グループCEO



津村佳宏

INDEX

- **健康の笑顔** 2
病院内ヘアサロン・ネットワークの拡大
医療用ウィッグのJIS規格化
- **社会の笑顔** 3
人毛の良さを活かした人工毛髪の開発を目指して
新毛材開発で持続可能な社会を目指す
学術研究機関との産学連携
最高の技術と知識
- **地球の笑顔** 5
活動の輪が広がる「フォンテーヌの森」
環境負荷低減のための店舗での工夫(適正な廃棄処理、フィッター削減)
- **海外での取り組み①** 6
生産現場での環境への取り組み
働きがいのある職場づくりを推進
- **未来の笑顔** 7
アデランスのCSR活動の原点「愛のチャリティ」
ウィッグとヘアメイクの魔術師集団「スタジオAD」
- **海外での取り組み②** 8
HairClub for Kids
グループシナジーを活かした支援
- **新たな動き** 9
アートを通じた障害者の皆様の支援
日本発の光触媒技術を世界へ
- **アデランスのSDGs** 10
アデランスのSDGs
ボズレー社でのDEIB 視点の取り組み

健康の笑顔

病気のせいで自分らしくいることを
あきらめてほしくない。
お一人おひとりに寄り添い、
心からのご提案を
いたします。



病院内ヘアサロン
こもれび



移動式理美容椅子

病院内ヘアサロン・ネットワークの拡大

2002年より、外来・入院の全ての患者さまやご家族、医療従事者などのあらゆる方が理美容サービスを受けやすいよう、バリアフリーに配慮した理美容室を、全国の病院内に順次展開しています。特に抗がん剤治療中の患者さまが、気軽に脱毛ケアやウィッグなどの外見支援の相談ができるよう、安心してご来店いただける空間づくりに取り組んでいます。例えば、車椅子に乗ったままカットやシャンプーができる移動式理美容椅子の導入や、カーテンなどでブースを半個室に仕切るなどの工夫を凝らしています。この活動は、ヨーロッパでも8店舗にまで広がり、世界中でQOL向上に向けたサービスを提供しています。

医療用ウィッグのJIS*規格化

国家規格である医療用ウィッグのJIS規格化前は、医療用ウィッグの定義がなく、中には粗悪品も流通していました。そこで、日本毛髪工業協同組合では、2013年から規格化を推進し、当社もこの取り組みを全面サポート。2015年4月20日に世界初の医療用ウィッグのJIS規格(JIS S 9623)が公示。当社は7月2日に医療用ウィッグ全20製品の自己適合宣言し、日本毛髪工業協同組合が認証する「Med・ウィッグマーク」の使用が許諾されました。JIS規格化は、各地方自治体における医療用ウィッグ購入費用の助成・補助が広がるきっかけとなりました。

*JISとは、工業標準化法に基づく日本工業規格(JIS)という国家規格のことを指します。



最高の商品を、
ずっと提供するために。
次世代に繋がる
「究極の人工毛髪」を
探求し続けていきます。



天然毛髪



サイバーエックス

人毛の良さを活かした人工毛髪の開発を目指して

毛材の安定調達・社会的課題の観点から1983年より人工毛髪の研究を開始。1991年には人毛の感触や風合い、人工毛髪の強度や扱いやすさを兼ね備えた「サイバーヘア」、2006年には鞘と芯の二層構造でより人毛に類似した「バイタルヘア」を商品化しました。2022年には、天然毛髪に近いツヤ感を再現した機能性人工毛「サイバーエックス」を15年の開発期間を経て完成させました。「サイバーエックス」の製造過程では、表面加工技術が進化し、二次加工の工程で発生していた廃棄物の削減にも成功しました。



新毛材開発で持続可能な社会を目指す

2018年9月、構造タンパク質素材の産業化に取り組むSpiber*と、当社のCSR活動への共感をきっかけに、共同研究開発に着手しました。今後100年を見据え、SDGsの観点からも枯渇資源に依存しない、人毛でも、化繊毛でもない、新たな選択肢となる毛髪素材の開発を進めています。同じ志を持ったSpiberと、多様化するお客様のニーズに則して、毛髪素材の最適化を図りつつ、コスト削減・環境負荷低減も叶える価値ある素材の1日も早い提供開始を目指して邁進してまいります。

*Spiber株式会社(スパイバー/取締役兼代表執行役:関山和秀氏)は、持続可能な次世代の基幹材料として期待されるタンパク質素材の産業化を目指し、設立されたスタートアップ企業。

プロフェッショナルとしての自覚と誇り。
高いレベルの技術力と
知識の追求に、
努力を惜しみません。



大分大学の
北野学長(中央)
猪股教授(左)

学術研究機関との産学連携

最高の商品を開発するために、様々な研究機関と毛髪分野に関する研究を行っています。2006年4月より大阪大学に寄附講座を開設し、担当の乾重樹特任教授は、AGA(男性型脱毛症)に対しウィッグが心理的QOL(やる気、積極性・自信、プライドおよび全般)の向上に影響を与えることを世界で初めて発表。現在は、赤色LEDが毛髪の成長に与える影響の研究を進めています。また、大分大学とは抗がん剤治療による副作用の脱毛予防や毛髪再生、 α リポ酸誘導体の研究などを2013年7月より共同研究として進めていましたが、2022年7月からは寄附講座として研究を継続することとなりました。



第54期全国技術競技大会



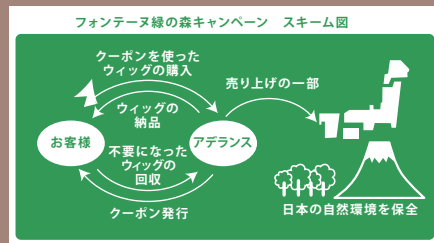
第54期アデランス全国
ロープレ・スタイリング大会

最高の技術と知識

ウィッグを笑顔でご愛用いただくため、アデランスの直営サロンや病院内ヘアサロンにおいては理・美容師が、百貨店などで店舗展開するフロンテアでは「似合わせ力」を持つプロフェッショナルが、お客様のご要望に日々お応えしています。また「接客力」「技術力」の更なる向上を目的に、研修だけでなく当社独自の技術認定試験や、社内大会を開催し切磋琢磨しています。また、お客様へ正しい毛髪知識でお応えできるよう、毛髪診断士®の資格取得の推進に取り組んでいます。

*毛髪診断士®は公益社団法人日本毛髪科学協会の登録商標です。

お客様・社員・地域社会との共鳴。
アデランスから広がる笑顔の循環が
サステナブルな未来へと、
次世代に繋がります。



活動の輪が広がる「フォンテーヌの森」

2009年から始まった「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」は、ウィッグの回収と環境保全を繋ぐエコサイクルです。不要ウィッグの回収時に、クーポン券を発行。券を利用して新たなウィッグを購入すると、売上の一部が植樹活動への寄付に充てられます。山梨県の山林から始まった活動は、2017年より東日本大震災の津波到達地に桜を植樹する団体、2019年からは静岡県とタッグを組み、累計1700本以上の植樹実績を残しています。自らの手で植えることに意義がある、という思いから現地社員が参加する植樹会を行っています。



環境負荷低減のための店舗での工夫 (適正な廃棄処理、フィッター削減)

当社では、経済と環境が両立する持続可能な社会の創造を目指し、店舗でも様々な工夫をしています。お客様から回収したウィッグの適正廃棄でCO₂排出量を削減。また、特殊樹脂製品でできた「フィッター」を使用したお客様の頭のサイズの採寸に、3Dスキャナーを導入。使用量が減少すると、資源も輸送量も抑えられます。さらに、店舗に節水用シャワーヘッドを導入することで、水道水の節水や温水化するためのCO₂削減にも効果を発揮するなど、環境に配慮した対応に努めています。

安心して働き、
信頼される商品を届ける。
アデランスのウィッグ工場は、
みんなの笑顔をつくる拠点です。



ソーラー攪拌機
敷地内の池(消火用水)を、きれいに保つために設置しています。



生産現場での環境への取り組み

タイ・フィリピン・ラオスの3か国に生産拠点を持つ製販一貫体制をとり、商品クオリティを維持図りつつ、環境に配慮した生産体制であることを大切にしています。主要生産拠点であるアデランス・タイ社では、1999年にISO9001(国際品質管理規格)と、ISO14001(国際環境管理規格)を認証取得。2012年より良質な試作ウィッグを現地病院へ寄贈を開始。ウィッグ製作時に生じる廃材は、リサイクル業者に売却し、その収益で植樹活動を実施するほか、退職する社員に贈る花束などにも活用されています。



ラオス職業訓練校でウィッグの植毛技術養成科を導入

働きがいのある職場づくりを推進

各生産拠点では、地域社会との共生と交流を深めています。アデランス・フィリピン社は、2013年に職場環境の充実・福利厚生面の促進・社員の家族に対する配慮が評価され、フィリピン・労働省管轄の“MDG ACHIEVEMENT FUND”から表彰されました。ラオ・クオリティ社では、2018年よりラオス国・政府と連携した職業訓練校で「かつら植毛技術養成科」を導入。ラオス労働社会福祉省からも、外国に出稼ぎに行くことが一般的なラオス労働者の職業の幅を広げる取り組みとして、高く評価されています。

無限の可能性を秘める
ウィッグの力を通じて、
笑顔と喜びにあふれる
未来の実現へ
貢献します。



アデランスのCSR活動の原点「愛のチャリティ」

「お子さまの髪の悩みを心の傷にしないために」をテーマに、病気やケガなどの理由でウィッグを必要とするお子さまに、売上金の一部を活用してプレゼントしています。創業10年を迎えた1978年、「社会への恩返しをしたい」という思いから開始しました。2012年にはクリスマス限定のキャンペーンから、通年のキャンペーンへと変更。2014年からは少しでも早くウィッグをプレゼントできるよう、従来のオーダーメイド・ウィッグだけでなく、レディメイド・ウィッグ(既製品)も対象に加わっています。



[撮影:堀 勝志古]

ウィッグとヘアメイクの魔術師集団「スタジオAD」

1983年に、劇団四季によるミュージカル『キャッツ』の日本初演にあたり、激しいダンスの動きに耐えられるウィッグを協力して開発したことがきっかけで設立。スタジオADのウィッグは、見た目の美しさや自然さはもちろん、登場人物の設定や役柄のイメージなどを考慮してデザイン。装着時の違和感や不快感を与えないように、伸縮性や通気性に優れた素材をネット部分に使用するなどの工夫を凝らします。現在は、日本を代表する舞台に採用される他、多数の分野でご使用頂いております。

アデランスグループの
CSRの共通言語「三方よし」で
気持ちを一つに。
世界中で笑顔の輪が
広がっています。



HairClub for Kids

「HairClub for Kids」は、髪に悩む6歳から17歳のお子さまへ、ウィッグと通常のヘアカットなどのスタイリングを含むサービスをプレゼントする活動で、約30年続く活動です。これまでに延べ1万7千人以上※のお子さまにご提供しています。“Every Child Deserves to Feel Confident” (すべての子どもたちが自信を持てるように)という思いから、お子さまのニーズに合わせてご提案ができる様、専門的なトレーニングを受けた「ヘア・ヘルス・エキスパート」が心を込めて対応をしています。

※HairClub for Kidsの提供枚数は、グループ化した2013年からの累計値



グループシナジーを活かした支援

「The Little Princess Trust」は、がんやその他の病気で髪を失ったお子さまに、ウィッグの提供や、小児がん研究の支援活動をしているチャリティ団体です。優れた活動団体として、エリザベス2世から大英帝国勲章「MBE」を授与されています。アデランス・ユケー社は、2011年から工場への毛材発送、サロンでのウィッグの納品など、活動を全面的にサポートしています。2020年には、アデランス・スウェーデン社、アデランス・ドイツ社によるグループシナジーを活かした支援を開始。子どもたちの日常生活をより明るく、少しでも楽にできるよう、取り組みの輪を広げています。

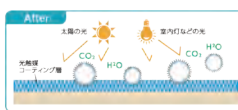
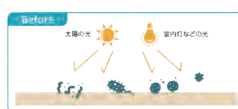
必要とされる企業であり続けるために。
アデランスの成長を支える
チャレンジ精神で、
新たな価値を
創造していきます。



アートを通じた障害者の皆様の支援

一人ひとり違う多様な人たちが安心して暮らせ、活躍できる社会作りに向けた取り組みである、障害者アート活動(パラアート)に賛同しています。2021年からは、「パラアートTOKYO[※]」に参加し、国内外の多くの応募作品の中から、アデランス賞を発表しています。「CSRコミュニケーションレポート」の表紙、お客様向けノベルティ、会社カレンダーへの活用など、コラボレーションの幅は広がっています。「誰も置き去りにしない」社会へ向けて、今後も豊かな社会づくりに貢献していきたいと思っています。

※主催:公益財団法人 日本チャリティ協会



※すべての菌・ウイルスに効果があるわけではありません。

日本発の光触媒技術を世界へ

長年の毛髪研究から生まれた健康に関する技術を活かし、毛髪だけでなく、美容や健康領域の研究にも積極的に取り組んでいます。2020年からは衛生管理への意識の高まりを受け、光触媒を中心とした衛生事業を開始。翌2021年にはアデランスバイオを佐賀県内に設立しました。また、当社は、光触媒反応の発見者であり、世界的な化学者である藤嶋 昭氏(東京理科大学栄誉教授)と顧問契約を締結しています。安心・安全に暮らせる地球の未来に向け、様々なパートナーと協力した研究開発を推進していきます。

みんながずっと
笑顔でいられるために。
CSR経営を推進することで、
持続的な成長を
目指していきます。



株式会社アデランスは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

アデランスのSDGs

アデランスグループは、グローバルに事業を展開する企業として、「自社の強みを社会で活かす」を基本精神に、お客様の毛髪に関するニーズに対応してまいりました。2030年までの実現を目標とする世界共通の目標「SDGs(持続可能な開発目標)」で掲げられる、さまざまな課題にも真摯に向き合っています。これまで実践してきたCSR経営の考え方を基盤とし、事業を通じた社会課題の解決を図ることで、持続可能な社会の実現に寄与し、持続的な成長を目指していきます。



トランスジェンダー患者様向けのSNS 発信



患者様記入用紙の多言語化

ボズレー社でのDEIB 視点の取り組み

アデランスグループでは、国籍やジェンダーなどを問わず多様な価値観や考えを持った社員が、それぞれの個性・能力を最大限に発揮できる職場環境づくりに取り組んでいます。ボズレー社では、「ダイバーシティ&インクルージョン」を進化させた考え方「DEIB[※]」を実践。2021年から組織横断型のDEIB委員会を定期的開催しています。試みを推進した結果、お客様・社員の満足度が向上する結果となるなど、多様性を認め合うことが、ビジネスにもプラスに働いています。

※「多様性(Diversity)」「公平性(Equity)」「包括性(Inclusion)」「帰属性(Belonging)」の頭文字をとった言葉。